

東三国ジュニアリーダー
東北ボランティア研修報告集

(校内・地域版)



2016 年 3 月 25 日～26 日
大阪市立東三国中学校

大阪市立東三国中学校平成 27 年度 Jr リーダー-東北ボランティア研修

【目 的】

- 防災・減災の取り組みとして、実際の震災被害を受けた現地での体験をすること
とで地域ジュニアリーダーの役割を認識し、本地域での活動の源を確立する。
- 自分たちのできることを見出し、人のため地域のために貢献する力を身につける。
- 現地中学生と交流をすることで自分たちの将来を見据えた交流、仲間意識の確立をも目的と考える。
- 現地の高齢者の方々とのふれあいや体験談を傾聴し交流をすることで、これからの時代を担う者の責任感を育み、「生きる力」の強さを感じ、共に元気を与え吸収したい。

【日 時】平成 28 年 3 月 25 日（金）～ 26 日（土）

【宿 泊】南三陸ホテル観洋

宮城県本吉郡南三陸町志津川字黒崎 99-17

Tel 0226-46-2442

【活動内容】

3 月 25 日 ○未来サポート石巻（防災まち歩き）

○女川：桜守りの会（桜植樹作業ボランティア）

：シーパルピア女川(お土産物)散策

3 月 26 日 ○南三陸町志津川地区周辺

（防災学習・語り部ガイドによる被災地体験）

戸倉地区(小学校・中学校跡)、高野会館、

ベイサイドアリーナ、防災対策庁舎

・南三陸さんさん商店街(昼食、お土産物)

東北ボランティア研修に行って

僕は今回、東北ボランティア研修に行って思ったことがいくつかあります。

一つは巨大津波の恐ろしさです。南三陸町の「語り部バス」である中学校に行きました。そこは、20mの高台の上にありました。しかし、その高台の上にあった学校も1階部分は浸水してしまったのです。そこに避難した人たちは車の中にいたり、車の座席を倒して居眠りしていた人たちもたくさんいたそうです。アナウンスでは初め6mの津波が来ると言っていました。1960年5月ごろ、南アメリカのチリという国で巨大地震がありました。その地震はしばらくしてから海をわたって日本にも津波が来ました。その時の津波の高さは6mだったので避難した人たちの中で、どんな大きい津波かと思にいった人もいたそうです。しかし、その津波はだんだん高くなり、もっと上にある山へ逃げはじめました。しかし、さっき言った車の中にいた人たちは周りの車に気づかず、さらに居眠りしていた人たちは車をたたいても気づいてくれなかったり、大変なことになりました。僕は、この話を聞いたとき、高台に行っても安心はできないと思いました。

2つめは、電気や水が止まってしまい大変だったことです。この話は泊まったホテルの女将さんに防災講話をしてもらった時に聞いた話です。水が止まってしまったことで洗濯もできなかったそうで、洗濯は川へ行っていたそうです。女将さんは、ご飯も出してあげたいという思いでご飯を少しだけ出してあげたそうです。けど、その時もお皿を洗う水がないので、お皿も紙皿だったそうです。なので水のかわりは、お茶やオレンジジュースだったそうです。電気が止まった時は夜になると真っ暗で、ろうそくに火をつけたりしてたそうです。電気は止まってしまうと他にも連絡がとれないので、家族とも連絡がとれなくて探すのも大変だし、もし病院とかで機械が止まってしまうということがあれば、それはとても命が危険です。

他にも石巻市では、タブレットでアプリを使って町歩きをしたり、女川町では除草ボランティアもしました。今回僕は、東北ボランティア研修に行って、事前学習よりもっと恐ろしく感じたのが巨大津波です。家などもほとんど流されていて、僕たちが行った時には、家が少ない地域なのかと思いました。けどタブレットなどを使って、震災前の写真を見るとたくさん家がありました。本当に巨大津波は恐ろしく、いつ起きるのかなどは誰にもわかりません。なので常に非常食などの準備、家族との話し合いが必要だと改めて思いました。今回の東北ボランティア研修で僕たちの経験したことはTVなどでは分からない

かった事もたくさんありました。なので、たくさん良い経験ができたのでよかったです。

東北研修に行って

私は東北ボランティア研修に行き、いろいろなことを学びました。私が行った所は宮城県石巻市と女川町と南三陸町と東松島に行きました。1日目は石巻市に行き、タブレットでアプリを使って町歩きをしました。アプリは地図になっていてピンがささっていました。そのピンの色は、赤いピンや青いピンや緑のピンがありました。それをタッチすると震災前と震災直後と未来図の写真がでてくるアプリでした。そして、先頭でいろいろなことを話してくれる現地の人の話を聞きました。印象に残っているのが萬代さんの話で、車で自宅に帰ろうとしているときに、十字路を通ろうとしたら津波が来たので、バックのまま日和山を登ったということです。それで、坂を下りたとき2人助けましたが、萬代さんはもっともっと助けたかったということです。

その次に行ったのは、「プーさん農園」です。ゆずを作る農園で、木の枝をひろったり、網をあったり、棒に黒色のペンキを塗ったりしました。プーさんは、妻と子どもが亡くなり、子どもの遺体は見つかったけれど、妻の遺体はまだ見つからなくて、「妻の遺体が見つかるまで農園を続ける」と言っていました。家族を失ってもがんばろうという気持ちがすごいなと思いました。

南三陸町ホテル観洋では女将さんから津波にあった話を聞きました。ホテルの従業員だけでなく、被災直後のお客さんやその後地元の人たちを守ろうとホテルにある分だけの毛布や食料などを用意した話を聞きました。とても大変だなと思いました。

2日目はバスの中で語り部の人が津波にあった場所をくわしく話してくれました。話を聞いて印象に残っているのが、作るのに5億円かかった小学校が直後に津波が来てつぶされたという話です。さんさん商店街では、タコとモアイ像が有名で、ストラップなどのお土産品がいっぱいありました。また海鮮料理などのお店もいっぱいありました。

東松島市 Jr リーダー交流会では、映像を見ながら津波にあった話を聞きました。グループになって、質問や意見を交換したりもしました。例えば、被災直後は、水や火や電気が使えなかったり、おにぎり1個を5人で分けたり、避難所でも人が多すぎ、一時追い出されたりしたこともあったそうです。東日本大

震災ではいろいろな人が亡くなり、残された人たちは大きなショックと心の傷を受けましたが、それでも生き残りました。もし私がこれから同じようなことにあった時は、今回聞きたいいろいろなお話を思い返したいと考えました。

東北研修をとおして

私がこの東北研修というすばらしい機会で学んだことはたくさんあります。まず、東日本大震災は太平洋近くのプレートがずれた地震でした。私が行ったのは宮城県石巻市という所と、女川町と南三陸町と東松島市です。

1日目は石巻に行き、タブレットでアプリを使いながら町歩きをしました。そのアプリは地図に赤いピンや赤いピンがささっており、ピンをタッチすると震災前と震災直後と未来図の写真がでてくるアプリです。そして現地の人々が先頭でいろいろな場所に行き、お話を聞きました。その中で一番印象に残ったのが、当時石巻に住んでいた萬代さんという方が車で家に帰っている途中に十字路があり、その先から津波がおそってきたそうです。そして、そのままバックで日和山という近くの山まで逃げ、ちょっと下に降りると車が流されていたりしたそうで、そのうち2人を助けたそうです。

その次に行ったのは、山の中の「プーさん農園」というゆず農園で、そこで枝を集めたり、網をはったりしました。プーさんは津波で妻と子どもと祖母をなくしたそうです。家族を失ってもがんばっている人たちを助けたりするのが私たちの役目でもあるのかなと思いました。

南三陸町ホテル観洋では女将さんの講話で、ホテルが津波におそわれたときの話を聞きました。自分たちの命も大事だけれど、お客さんの命も守るために毛布なども準備した話を聞きました。大変な仕事なんだと思いました。

2日目は語り部バスで、その場で起きたことをいっぱい詳しく話してくれました。その場で聞くから想像もとてもしやすかったです。さんさん商店街では海鮮物をおなかいっぱい食べました。お土産屋さんでは海の家草などを使ったストラップなど手作りのカバンなども売ってました。

東松島のJrリーダーとの交流会では、映像で知れない詳しい話や質問もできていろいろ知ることができました。例えば、電気も水も出なかったりケータイは圏外になったり、学校に避難しても人が多くて追い出されたりしたそうです。

東北研修では東日本大震災のことをいろいろ知れてよかったです。現地でのボランティアなども大事だけど、後の世代に伝えたり、現地に行って経験した

人の実体験を聞くことだけでも大事なんだと思いました。これから災害が起きても大丈夫な町や市にしていったり、あとの世代に伝えていきたいと思いました。東北研修で学んだことを頭の奥に残しておいて、いざというときに生かせたらいいなと思いました。

東北研修に行って

東北研修に行って、災害は恐ろしいものだとかわかってはいるつもりでしたが、実際はもっと恐ろしくて大変なものだと知りました。

ホテルの女将さんの話では、逃げる時は自分を一番大切にしなければいけないけど避難してからは、助け合いの精神を持つことが大事ということを知り、納得しました。

女川の「プーさん農園」ではお手伝いをしてしんどかったけど、機械を使わず、みんなで力をあわせてがんばるとすごく達成感があり、やりきったことがうれしかったです。

私は、津波のおそろしさと助け合うことがどれだけ大切なのかを学びました。

東北研修に行って

私は今回の東北研修を通してたくさんのことを学びました。

防災町歩きでは、津波が来たところをアプリを使いながら歩きました。場所によって震災の後が残っているところもありましたが、建物などが津波で流されて面影一つ無いところもありました。それぐらい被害が大きかったんだと見てわかりました。

東松島の Jr リーダーとの交流会では、東松島の中学生・高校生の皆さんから震災のお話を聞いたり、班ごとに話し合ったりしました。話を聞いていると想像してた以上に大変で、つらい思いをされたんだなと思いました。そのことを思い出すのがどれだけ嫌なことだろうと考えるだけで話をしてもらってるのが申し訳ないなと思いました。でも、そういう風に経験した子がいろいろな子に話をし、広めていくことが減災につながっていくんじゃないかなと思います。

こんなつらい思いをしながら生きている方々、頑張っている方々を私たち Jr リーダーだけじゃなく、他の中学生やたくさんの方々が被災地などを訪れ、何か手伝ったり、笑顔を届けたりする、そんな事でも東北の方々にとって力になるんじゃないかなと思います。そして、これからもずっとこの東日本大震災の事を忘れてはいけないと私は思います。

東北で学んだこと

私は東北の宮城県へ行ってたくさんの方々のことを学びました。

まず最初に、防災町歩きという石巻市をタブレットを使いながら歩くということをしました。実際、歩いてみて、自分たちが歩いたところが津波で大変だったことが全然想像できませんでした。タブレットを見ながら歩くと、5年たってすっかり変わったところもあれば、まだ跡が残っているところは看板が津波でつぶされていたり、ガラスが割れて板をはっている家もありました。それを見て、津波って本当に恐ろしいなと思いました。

次に南三陸町というところをバスで移動しながら、語り部バスの方がお話ししているのを聞きました。そのお話を聞いて、津波でまだ幼い命からお年寄りの方までの命を一瞬にしてうばって行って、本当に恐ろしいなと思いました。でも一つ思ったのは、昔のチリ地震の津波の高さで油断してしまって、今回高い堤防のところにいた人たちが、もっと高いところに避難せずそこにとどまったため被害にあった話です。油断と思い込みから安心感が出てしまったのではないのかなと思いました。

最後に東松島市の Jr リーダーの人たちに東日本大震災の時の話を聞きました。その話を聞いて、自分が思っていたよりも大変だったんだなと思いました。バケツに水をくんだり、二時間半ぐらい並んでもらったのが、一口サイズの小さなエノキだったりとか、本当に生きるのに必死だったんだなと思いました。

この2日間で東日本大震災がどれだけ恐ろしいのか、どれだけ多くの方の命をうばったのかがよくわかりました。自分たちがのんびり暮らしていた中で、多くの方々が悲慘な思いや苦しい思いをしていたんだなと改めて思いました。自分たちが歩いたところには悲慘なドラマや逆に奇跡が起きたドラマがあったと思うと、とても心が複雑になりました。実際に体験した方が「津波が来たときは一刻も早く逃げる」「みんなで力をあわせる」ということが大切だと言って

いたので、今度大阪に地震や津波が来たときには、体験した方の言っていたことを思い出して、一人でも多くの方を助けられたらいいなと思いました。たくさんの方のお話を聞いて、二度とこんな大きな被害にならないように自分たちが学んだことを忘れずに、役に立てたいなと思いました。

東北ボランティア研修

今回、私たちは東北研修でたくさんの経験をしました。

タブレットを使い、震災前の写真と震災直後の写真を同じ場所から見比べて現在どれほど復興しているのかを確認させてもらったり、「プーさん農園」で柚子畑の仕事のお手伝いをさせてもらったり、ホテルの女将さんから防災講話を聞かせてもらったり、語り部バスでたくさんの場所をまわりながらいろいろな人たちの体験談をしていただいたり、現地の Jr リーダーと交流したりしました。

その中でも印象に残っているのは、宿泊先のホテルの女将さんのお話と現地の Jr リーダーと交流したことです。

女将さんのお話では、震災直後はたくさんの人たちがホテルへ避難してきたんだとおっしゃってました。この時、スタッフの方々のすばやい判断と行動でたくさんの人たちを救うことができましたが、スタッフの方々の家族の安否確認ができず毎日毎日とても不安だったそうです。それでも生きていることを信じてあきらめなかったとおっしゃってました。このお話を聞いて、現場のすばやい判断をすることで救える命がたくさんあるんだということも分かったけれど、救った人たちにも家族がいて安否の確認すらすることができない状況は、私たちには想像がつかないほど悲惨なものだと感じました。

また、現地の Jr リーダーとの交流では、私たちと歳が変わらない中高生の人たちに震災で困ったことは何でしたかと聞くと、食べ物はずりず、水もペットボトルのキャップほどしか飲めなくてつらい思いをしたそうです。このお話の中で一番意外だったのは、避難所はとっても暇だったと言っていたところでした。この交流で感じたのは、私たちと同じ中学生なのにこんなにも苦しい大変な思いをしていて、他人事じゃないと思ったことです。

今回の東北研修ではニュースでは分からないたくさんの人たちの生の声を聞くことができ、震災の悲惨さはもちろん、あきらめなくて生きていく強さを学びました。この経験を少しでも周りの人に伝えていくことと日頃から防災意識を高めていきたいと思いました。代表で行かせていただいて本当によかったです。

す。

東北研修を活かして

私は東北に行ってきたさんの事を学び、活かそうと思いました。

被災地に行く前に聞いていたので、がれきがたくさん積んであったり、建物も全然ないんだと思っていました。でも、建物も建っていたし、がれきも一部で少し見たぐらいだったので、復興が進んでいてとてもうれしかったです。それでも看板が曲がっていたり、3階の窓のガラスが割れていたりと、まだまだ5年前の事なのに震災の跡も残っていました。この東日本大震災の事を忘れないために残している建物もありました。その建物の中で亡くなった方々は市民を守るために自分の仕事を全うして、津波の恐怖と闘いながら死んでしまったと聞きました。自分なら逃げてしまうと思います。

実際に現地のJrリーダーから知らなかったことも聞けてとても勉強になりました。たくさんの人から話を聞いて、震災は体験しないとその恐怖がわからないんだろうな、きっと私たちが聞いて想像してる何十倍も何百倍も怖いんだろうな、と思いました。

東北に行ってきたさんの事を学ぶことができました。学んだことを周りの皆さんに伝え、考えてもらい、もう一度地震や津波の災害に備えてほしいと思いました。東北研修に連れていってくださった先生方、協力して下さった方々、本当にありがとうございました。

東北ボランティア研修

私はこの東北研修でいろいろなこと見て、聞いて、感じました。

石巻の防災町歩きでは、タブレットを使い震災直後の画像をみながら町を歩きました。その画像を見ると津波の悲惨さや、今どれだけ復興しているかが伝わりました。一見、町は震災なんてあったようには思えないくらいきれいです。けれど、ところどころ看板が曲がっていたりして、この地で震災があったことを物語っているところもありました。でも、その石巻の町が今これだけ復興し

ているのは、町の人たちの頑張りがあったからだと思います。ある人は、だれも商売を再開させようとしないうちに、「誰かが始めないと」という思いでフルーツ屋さんを再開させたそうです。本当に町の人たちが頑張り、協力しあったんだなと感じました。

東松島のJrリーダーとの交流会では、震災時今の私たちより小さかった同世代の子たちがいろいろな体験を話してくれました。今の私たちの生活からは想像できないことばかりでした。コップ1杯の水しかもらえなかったり、スーパーで2～3時間並んだり、ガソリンが1リットル千円もしたり、水がもらえない日だってあったそうです。5年前小学校2年生だった私は、そんな生活に耐えられなかったかもしれません。その生活を頑張って乗り越えた現地の人たちは強いんだなと思いました。

ホテルの女将さんは、被災した人たちはたくましく強く前に進んでいると言っていました。沿岸部の人たちはこの震災で生きる力をつけたそうです。「千年に一度の災害は、千年に一度の学びの場である」私たちはこの大きな震災を生かしていかなければならない。強くそう思いました。

2 日間の経験

バスに乗っている時は、正直今からする事の実感がまだわからなかった。だが街並みが変わるにつれ、やっとボランティアに来たのか、と思った。

タブレットを使いながら町歩きをしているとき、震災前と後では全く違う景色だった。あったはずの木やマンション、看板などが言葉にならない姿で写っていた。それが心に残った。高いところにある看板がへし折られ、3階の窓ガラスまでもが割れていた。

宿泊先の防災講話を聞いて、1人や2人だけの力ではできない、みんなの力が大切、助け合いが大切ということを知り、それがよくわかる映像も見せてもらいました。

東松島のJrリーダーと交流して、実際に震災を経験した子から話を聞くと、どれだけ不安、大変かがたくさん伝わった。

現地の人たちから教えられたことはたくさんあります。例えば避難訓練は常に緊張感を持って行うこと。これは学校でも取り組めることだと思います。私は東北ボランティア研修に参加できてよかったです。テレビの情報だけでは分からない、その場所に行かないと分からないことももちろんある。これからも、

この2日間の経験や学んだ事を活かして、東三国の地域などに広げて伝えたいと思います。

東北研修

私は東北研修に行って、災害が起こった時に自分ができることを学びました。避難の手伝いや呼びかけ、避難所の設営の手伝い、避難している小さな子どもと遊ぶなどです。私は考えても分からなかったのに、東松島のJrリーダーの人がほとんど考えていたのですごいと思いました。東松島のJrリーダーの人に津波が来たとき大変だったことを聞きました。スーパーに2時間半並んでもエノキ少ししか買えなかったり、お湯をわかせないから乾燥した麺をそのまま食べたりしていたそうです。こんなに大変だったのに、一方では野菜やお酒を届けたり、服や靴をあげたりしていた人もいたそうです。自分と年がそんなに違う人たちが、もっと小さいころ津波を経験したんだと思うと他人事のように感じたのが身近に感じました。被災地の人たちは助け合って生きてきてすごいと思いました。これから津波が来てもこの研修で学んだ事を思い出して頑張りたいです。

東北研修

今回の研修で僕が感じたことは、着実に1歩ずつ復興に向かっていっているということと、被災した人たちがその時の記憶を忘れないということと、そのことを他の人に伝えたいという思いでした。

防災町歩きの時にタブレットを使って町歩きをしたけど、震災前、震災直後、またその後の写真とかあったので震災の被害がこれほどひどいものだったので驚きました。そこへは実際に復興の進み具合も見てきたのですが、次の災害に備える復興の仕方をしていて、今回の災害で何がダメだったのかという考え方をしていたのですごいと思いました。

震災講話や語り部バスや東松島のJrリーダーの人たちの話を聞いて防災について深く考えさせられました。そのときの生々しい話を聞いていたら、その時

のことを他の人に知ってもらって防災について考えてもらいたいという思いが伝わってきて、僕もこのことを他の人に伝えていきたいと思いました。最後に言いたいことは、一人一人が防災について考えていかなければならないことと、起こった後では遅いということです。

東北防災研修

今回の東北研修では、テレビではわからないようなお話や体験をすることができました。

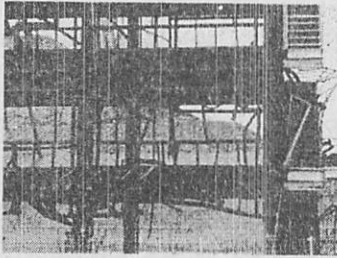
防災町歩きでは、アプリを使用しながらその場所の震災前、震災後そして未来図を見ながら歩きました。震災後の写真は震災から1日後のものもありました。そこにはまだ海水に道路が浸っていて驚きました。また、パーキングエリアの看板が曲がったり、津波が4m以上の高さできたところもあり、改めて津波は恐ろしいなと思いました。

宿泊先のホテルでは女将さんからそのときの話を聞かせてもらいました。震災後たくさんの方が避難してきたので食料が足りなくなったときもあったそうです。そんな時はおにぎりを4分の1にしたりしてなんとかまかなっていたそうです。それを聞いて、みんながピンチの時は、一人一人が協力して乗り切ることが大切なんだと思いました。

翌日、東松島市のJrリーダーの方々との交流会がありました。そこでは実際に震災を経験した同年代の子と話し、ライフラインが止まりっぱなしの生活が、どれほど不安な気持ちになり、そして大変だったかを知ることができました。

たくさんの方々と出会い、話を聞いた中で「津波てんでんこ」という言葉を聞きました。これは津波が来たら、家族は必ず逃げていると信じ、自分一人でも高台へ逃げろという意味だそうです。これはどんな災害でも同じことが言えると思うので、とても重要な言葉だと思いました。

今回、東北防災研修に行かせていただき、テレビで見るだけでは分からないような経験をすることができました。これからこの研修で学んできたことを活かし、東三国地域や他の地域にも広げ伝えていこうと思います。



震災から5年 明日へ

「ただいま」と帰阪後、真っ先に家でしたこと（そういう衝動に駆られていた。）…インターネットで「※遠藤未希 天使の声」「3, 11 東北大震災当日」を再見した。

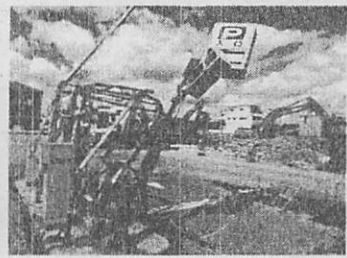
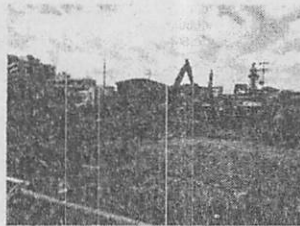
これまで、新聞やニュース、報道番組といったメディアを通して、幾分知っていた被災地の状況。しかし、現地を訪れて、今まで私が感じてきたのは、それはあくまでメディア媒体の箱の中から見えた、か細い見解でしかなかったのだ、と実感させられた。

（※宮城県南三陸町「防災対策庁舎」から防災無線で町民に避難を呼びかけ続け、最後津波に飲みこまれ犠牲となった町職員。）

初めて訪れた東北の地は「な
～んもない」

「えっ5年たってるのに」「5年
たっても」…

解体のお金がないからか、手つかずの当時の姿がそのまま残っている施設設備すらある。



確かに、5年の流れと共に、日常を取り戻すことができている人は多い。しかし、いまだ仮設住宅で暮らす人、戻る場所がない、学校を転校した、仕事を変えた…

まだまだな状況の中、「復興」への長い道のりを覚悟し、みんな必死で前を向いて動いている人がたくさんいる。



バスの車窓から目の前に広がり続けるのは土、どこまでも土。かさ土、盛り土ばかり。

建物ひとつなく、あるのはショベルカーや重機ばかり。走っているのはダンプカー。

かつてはここに街があったのだ。ここで生活している人、ここで買い物している人、近所のおばちゃん同士が笑ってしゃべってたんや。学校でみんな勉強や部活をしてたんや。

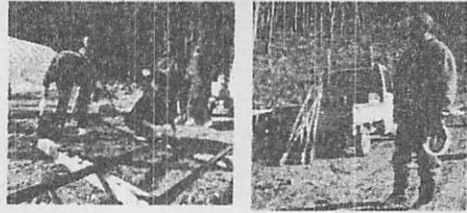
でも何～にもない。一瞬にして、日常の全てが流され失われたのだ、と突きつけられた。

震災講話でお世話になった旅館の女将さんのことば、

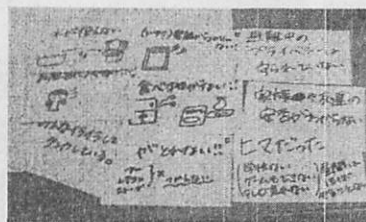


「経験が大事」「挑戦する気持ちが大事」、「人口が減り続けている現状がある。経済が上手く回らないと人は集まらない。」

ゆず農園(Jr リーダーは除草作業のボランティア活動した。)の佐藤さんは言う。奥さんの遺体は5年たった今もまだ見つからない、奥さんと会えるまでは故郷に帰らずこの地で残って活動进行、ただ「6年後成人式にここに来てほしい」、はたまた「新婚旅行で再び訪ねてきてほしい」と。



東松島中学生と東三国 Jr リーダーと交流ワークショップ。
Jr リーダーたちは(テーマ:『東北大震災から学ぶ』)「いちばん大変だったこと」「この体験で何を学んだか」「中学生として自分ができること」を互いに考え合う機会を持った。



今回 Jr リーダーが代表で研修させてもらったが、得るものは大きかった。「私たちに何ができるのだろうか。」を考えたとき、お二人のことばを思い返す。「東北を思うこと」「東北を訪ねること」「東北を見つめ続けること」「これから関心を持つこと」ではないか。

「前に進むこと」は大事だし、過去は変えられない。が、時にはふり返って、歩んできた足跡を見ることも大事。「被災地を忘れない」「震災を風化させない」ためにも。

被災地を訪ねて現実を直視することはもちろん、震災当時小学校低学年だった子どもたちが、インターネットで「3.11」を検索するだけでもいい。

「見て」「感じて」「考える」こと、その積み重ねこそが、「防災」「減災」への第一歩である。



修学旅行の可能性を考えて

2011年の震災直後から、復興がある程度進んだら、修学旅行が必要だと考えていました。子どもたちには「防災学習」のみならず「命や生き方」「勇気と希望」を考えるきっかけを。また、復興を進めていくためにはやはりお金が必要だからです。修学旅行で少なからず被災地にお金を落とせます（観光産業など）。

阪神淡路大震災時には、救援物資を運ぶボランティアに参加しましたが、東北はやはり距離などの問題もあり、今まで行くことができませんでした。今回の東北研修をチャンスと思い、参加することにしました。

行きのANA機内でCAさんから「東北ボランティア研修団様ですね？私たちにも何か協力できることはございませんか」と声をかけられました。「すぐには、思いつきませんが・・・」「どのような活動をされますか？」「講話や実際のボランティア活動と、それから現地中学生たちとの交流活動もしたりします」「それではこれをどうぞ」とたくさんのキャンディとポストカードをいただきました。

初日の晩、宿舎のホテル観洋の女将さんから1時間ほどの講話を聞きました。ホテル自身も津波による被害（浸水）を受けましたが、地元企業としてどのように被災地の人たちを支えていったかという内容でした。講話の中で「現地がお客様を迎えられるまでになった今、一番の支えになるのはやはり来ていただくことです。来ていただき、知っていただき、それを伝えていただくことが精神的な支え。人口減少と産業の衰退で、現地でお金を使っただくことが物質的な支えです」

2日目の昼、三陸町のさんさん商店街で家族連れの男性から声をかけられました。「どちらからですか？」「大阪からです」「時期的なことや人数から修学旅行とは違うような？」「有志によるボランティア研修団です」「そうですか。どうもありがとうございます」とお礼を言われました。

今回の東北行きで、ますます「東北修学旅行をいつか実現させなければ」という思いが強まりました。しかし、大きな壁があります。交通費の高騰です。それにより行き先が大分制限されるようになってきました。そこで今このようなアイデアを持っています。国（復興庁、文部科学省）行政（大阪市）企業（航空会社、鉄道会社）などから補助を受けられないかということです。東北（被災地）修学旅行に限り、学校へいくばくかの補助をするという制度が法整備、条例制定されないかなと思います。航空会社も学校への東北割引を実施すれば、

空席も減らせるし、企業イメージのアップにもつながるかと思います。このアイデアが実現できるように個人でもできる範囲で動きたいと思っています。そして共感していただける方は、どんどんこのアイデアを広めていただけたらありがたいです。

東北 J r 研修に参加して

仙台に到着後、石巻市の防災まち歩きを体験しました。5年前の震災直後の映像と現在の映像。また、将来の街の計画をタブレットで比較確認する事が出来、当時の凄さがわかりました。津波被害の凄さが実感できる建物や、復興の様子を見る事が出来ましたが、まだまだ復興が進んでいない事がわかり少しがっかりしました。

午後は、農園での除草作業、野生鹿よけの防御ネットの補修と設置を手伝わせていただきました。農園を開拓している男性は、津波でご家族を無くされて居て、見つかるまで現地で作業を続けるとがんばっています。石巻・女川地域でも、まだまだ家族・兄弟の確認が出来ていない人たちが沢山居るそうです。また、私たちと同じ様に各地から被災地にボランティアの方々が多く応援に来られていて、毎日毎日少しずつ着実に前進しています。

宿泊先のホテルでは夕食後、女将さんの震災講話を聴きました。震災直後のホテルの様子。女将さんをはじめホテルスタッフの動きを聞き、地域でも活用できると実感しました。(以下内容)

【被災直後】

避難→誘導→対策本部設置→避難者の受入れ→避難者への理解と協力依頼

- ① スタッフには避難者優先なので、「辛抱・我慢をする事」と「心を強く持つて」とスタッフに何度も何度も言い続けた事。
- ② 厨房の責任者には1週間の献立を作成する事。
- ③ フロアー責任者にはホテル内のろうそくを集める事

各自がそれぞれ考えながら行動に移し、お客様のため・地域住民のため、家族を犠牲にしてまで使命感を持って行動された事にすごく感動しました。

大災害時は、一人ひとりでは対応できない事が多く有り、皆が協力する事が大切であり、それぞれが自信を持って行動する事の必要性を再認識させられました。災害被害直後、警察官がホテルに来られ、持っている警察無線機が唯一の情報手段で有った事から避難者の状況を外部に伝え、必要な物資が揃っている

避難所に人を移す事も可能となったり、道路状況も把握する事が可能となった事から避難者が自分の家に行く事も出来るようになった。ただ、情報の入手が困難な事から、安否確認にはすごく苦労をされていたのが話の中から聞き取る事ができました。

【避難所運営】

- ① 給水車の配備により、お風呂の提供
- ② 医療ボランティアの受入れにより、ケガ・病気の人たちへのサポート
- ③ いち早い災害復旧復興のため、電力会社・NTT等の企業に拠点になってもらい活動を支える
- ④ 学生・経営者の受入れを行い、子どもを将来の復興の担い手として残す必要から勉強のサポート、また経営者には働く場の提供をお願いする

【復興に向けて】

ホテルでは、多くの取引先が廃業に追い込まれ、人口流出に歯止めを掛けようとレストランの開業・塾やスイミング等、子どもの教育現場の提供も企画実行した。取引先に於いても、店を構える事は出来ていないが、直接品物を納品をするなど一歩一歩着実に前進している事がわかりました

2日目は南三陸地域をバスに乗り「語り部ガイド」を受けました。ガイドさんは、南三陸で生活している人なので、生々しい話を聴く事が出来ました。テレビ映像で頻繁に放送された、防災対策庁舎で最後まで避難誘導をされた女性は自分の職を最後の最後まで全うし多くの住民を助ける事が出来ました。彼女は24歳の若さで帰らぬ人となりましたが、彼女の功績は多くの人の心をつかみ、彼女の「天使の声」が埼玉県の公立の小中学校の道德の教材として使われているそうです。南三陸の街は、ほとんどが更地で、将来に備えてかさ上げの工事中で多くの土の山があちこちに出来上がっています。この地に於いても、まだまだ復興途中なのがわかりました。

最後は、東松島のJrリーダーとの交流会です。東松島のJrは基本が子供会活動が中心で、地域活動にも積極的に参加している組織で、市内の中学校と高校の参加希望者で組織され、現在は60数名の参加者が居ます。初めての顔あわせなので、双方とも緊張気味でしたが、コミュニケーションをとるきっかけのゲームをしていただいて少し打ち解けあう事が出来ました。つづいてワークショップを2つ行いました。

① 今回の事で困った事

東松島の子ども達は実際経験している事なので、水が来ない・電気が付かない等ライフラインの不通による不便さ等複数の事柄を書き出す事が出来ましたが、東三国の子ども達は想像の世界での記述になります。

② 中学生に出来る事

被災直後から5年後を想定して時系列で記述していきますが、東松島の子ども達は、避難所での大人のお手伝いや小さな子ども達との遊び等の内容を記述していましたが、東三国の子ども達も自分なりにやりたい事、やってあげられる事、出来る事、備えておける事などを記述していました。ワークショップでは、現状把握→検討→対策→実行 という流れを自然に理解できたと思います。

今回の東北Jr研修で、大人の人（語り部）の話し・ボランティア活動を通じて、それぞれ感じる事が多かった事と思いますが、中学生にとっては年代の近い地元の中学生との交流が一番印象に残ったのではないのかなと思いました。女将さんが話の最後に、「被災地では多くの人に来てほしいと願っている事」「是非東北に来て、自分の目で見て身体で感じてほしい」「これからも情報発信を続けていく事の重大性」を話していました。私は5年前の4月に仕事で東北に来ましたが、その当時の様子と現在を比較すると、瓦礫は撤去され新たな街づくりの為に、道幅の拡張工事が進むと同時に、かさ上げ工事が周辺で行われていますがその様子を見て、あれから5年も経ったのかな？まだ5年しか経っていないのかな？と言うのが私の印象でした。今後も、機会があれば東北に出向き、復興の様子を見て行きたいと思いました。

続いていく取り組みに

昨年8月のJr. リーダー結団式から地域の防災訓練、淀川区防災リーダーの研修、小学校の避難訓練などに一緒に参加してきました。研修の前日の壮行会では校長先生より「君たちの今回の東北ボランティアは生涯の中でとても意味のあることになります。」地域活動協議会の会長より「現地に行き、肌で感じてきてください。」とのお言葉をいただきました。図書館での東日本大震災のDVD視聴では泣いている生徒もいて、明日から大丈夫なのか？心配になりました。

当日、早朝より校長先生や先生方にお見送りいただき仙台へ。まず、石巻でタブレットを使っのまち歩き。震災前の様子、震災後の様子、未来の様子を見ることができ、とても理解しやすかったと思います。女川では体操服に着替えてゆず畑で鹿よけのネット張や木切れひろいなどの作業を行いました。黙々

と一生懸命作業した後は、揚げたい焼きをごちそうになり、生徒たちは笑顔いっぱいになっていました。

宿泊したホテル観洋の女将さんからは、震災講話を聞きました。「まずはじめに、私にも中3の娘がおりますが、このような研修を企画してくださった校長先生、我が子を研修に参加させてくださった保護者の方々に感謝申し上げます。現地を見せることに反対されるPTAもいらっしゃるんですよ。Jr. リーダーとしてお越しくださった皆さんは、本当に立派ですね。学生のうちにここに来ることができるのは素晴らしいことです。」震災時の大変な状況をお話していただきましたが、「心を強くもって！」と声掛けしていたことが印象に残りました。震災後の大変な時期でも母親たちからは子どもの教育が心配だとの声があがり、ホテルの中に寺子屋を作ったとのこと。水や食料の心配だけではなく、そんな大変な状況下でも教育の心配をする母親の気持ちはよくわかりましたし、このことは、元気アップ事業地域コーディネーターをして今回の研修で一番参考にしたいと思ったことです。女将さんのリーダーとしてのその時ある状況で最善をつくすこと、前向きにあきらめない姿勢は本当に素晴らしいと思いました。

2日目はバスに語り部ガイドさんが乗車して被災地視察。震災時のお話は聞いていてとても辛くなりましたが、語り部さんは地元にもどられたら、防災・減災に役立ててほしいとおっしゃっておられました。天使の声の遠藤未季さんが、「津波が来ています。高台に避難してください。」とアナウンスし続けた防災対策庁舎の前にはおじぞうさんがあり、お花や千羽鶴が供えてありました。震災直後、テレビで何度もみていたこともあり、そこでは涙が止まりませんでした。チリの大学生も来ていましたが、手を合わせながら生徒達はどんなことを思っていたのでしょうか・・・

南三陸さんさん商店街では、お店の3名の女性から震災時から現在のお話を聞かせていただきました。「逃げ遅れていないか？近所のお年寄り宅とかをまわったけど、ほとんどの方が避難していた。」「なんで私らがこんなめにあわないといけなかったのか？最初はすごく辛かった。」「何もかも流されたが家族は全員助かった。今は仮設からこの店に通っているが、来年の春には家が建ってます。」「あれだけのことを体験したのだから、これからは良いことしかおこらないと思っている。」などなど。皆さん最後には「大阪から遠いところからありがとうございます。震災時には本当に全国からお世話になりました。」とおっしゃっていました。失礼なことを言ってしまうようにただお話を聞かせていただいているだけでしたが、聞いてほしいと思っている方が多いのかもしれない。震災から5年が経ち、前向きな気持ちになろうとしていらっしゃるような気がしました。

今回の東北ボランティア研修の中で、東松島Jr.リーダーとの交流やワークショップが生徒たちにとって一番実りあるものになったのでは？と思います。高校生など年上の生徒さんが多かったこともあり、最初はぎこちないスタートになりましたが

① 東北大震災が起きてから今時まで

「一番大変だったこと」では、グループにわかれて同年代の方から生の声を聞かせてもらうことができました。

② いま震災が起きたとしたら

「中学生として自分ができること」では、「小さい子の相手になる。」「お年寄りの助けになる。」「避難所の掃除をする。」「物資の配布なのを手伝う。」など東三国Jr.リーダーもたくさんの意見を出していました。交流会、ワークショップにもう少し時間があれば、さらに良かったとは思いますが、限られた時間の中でしっかり取り組んでいたと思います。

1泊2日の研修に同行させていただき、生徒たちはこちらが心配するより気持ちの切り替えもできていました。何より大人が思うより生徒は強くたくましくと思いました。東日本大震災から5年経った現地では、がれきなどはありませんでしたが、現地で実際に経験した方々のお話を聞かせていただいたことは、とても貴重な経験になったと思います。生徒たちが感じたことを皆さんにお伝えすることが大事だと思います。また、これから地域でどんな風にJr.リーダーとして活動していくのか地域として見守りたいと思います。このような東北ボランティア研修は今後もぜひ続けてほしいですし、たくさんの生徒が参加できるといいと思います。

東北研修を終えて

昨年8月、東三国Jrリーダーが結成され、さまざまな地域活動や、地域防災活動・研修・学習に参加し、着実に成長を遂げている精鋭13名。

平成27年度最終の集大成となるべく活動に結集した。

1泊2日の強行軍。主要な取り組みを重ね、生徒の感想文にも出てくるように「現地を、実際の目で見て、耳で聞いて、肌で感じ、かえがたい体験となったことは言うまでもない。東松島のJrリーダーとの交流においても本当の意味で理解できていなかった「Jrリーダーとしての自分に今、何ができるのか?」「これからの自分たちはどうあるべきなのか?」を真剣に考え、答えを出せる大切な機会となった。

これからの大きな飛躍と、大きな期待を感じながら・・・

今回の研修にご協力をいただいたすべての皆様に心からの感謝を。